



## 発行所

〒921-8116  
 金沢市泉野出町3丁目10-10  
 石川県立金沢泉丘高校内  
 一泉同窓会  
 電話 (076) 242-0211  
 F A X (076) 242-0211  
 2000. 5. 31. 発行  
 E-mail : issen.knz@hotmail.com



## 平成11年度一泉同窓会総会 川北篤会長から小倉周一郎新会長へ

### 役員交代

平成11年度の一泉同窓会の総会と懇親会は10月15日午後6時から、ホテル日航金沢で行われ、順調な議事進行と盛大かつ和やかな歓談の場となった。

川北篤会長(一中55期・一高)の挨拶、中山修校長の母校近況報告、正村事務局長の一泉同窓会・一泉基金収支決算と事業等経過報告、監査報告がなされ、いずれも満場拍手で可決承認された。

当日の参加者は、近年の平均400人をはるかに上回る655名(申し込み702名)という大人数を記録し、金沢最大の宴会スペース(テーブル方式)を誇る同ホテルでもまれな大規模な集いとなった。

報告審議の最重要事項は、任期満了による川北執行部の退任と新執行部の選出。新会長には泉丘7期の小倉周一郎氏が満場一致で選出された。

平成7年以来2期4年の川北執行部は在任中、平成10年の泉丘創立50周年や、通信制課程創立50周年など、節目を飾る記念事業に足跡を残し、次の小倉新執行部へとバトンタッチした。

### クラシックな演出・懇親会

引き続き懇親会は、灯りを消した会場に、プロのシャンソン歌手・井関真人氏とピアニスト吉川正夫氏の演奏と歌声が流れる華やかな雰囲気包まれた。出席者の最長老・福田尚造氏(一中40期)の乾杯音頭で開宴。

北山吉明氏(泉丘18期)のカンツオーネ、中田佳珠氏(泉丘31期)のピアノ、続いて東海林也令子氏(泉丘18期)のピアノ、大久保秋子氏のバイオリン、細川文氏(泉丘43期)のチェロの三重奏という華麗なアトラクションとなった。

この三重奏は好評で、後日事務局へ「従来その例が全くないクラシック、それも小生が、器楽の形態でもっとも好きなピアノ三重奏、そしてこれ



以上になくくらい好きなシューベルトのピアノ三重奏、そしてこの作品の中でも特に美しい第一楽章。耳と心を天国の様に楽しみました。」との便りがあり、700人にせまる大宴会の中でのクラシック音楽の効果も大きかった。

懇談はいつまでもつきなかつたが例年のごとく、全員が肩を組み合つての校歌・応援歌の合唱に、同窓会の雰囲気は一段と高まった。小倉新会長が閉会の挨拶。一泉同窓会の益々の発展と会員の健勝を祈念してめでたく解散となった。

11年度幹事期の18、19、27、37期の皆様、ご苦労様でした。2000(平成12)年は10月15日(日)、金沢東急ホテル(金沢市香林坊)で開催の予定。幹事期は泉丘19、20、28、38期の方々。

### 厳粛に物故者慰霊祭

10月15日は朝から小雨がちで、午後3時から物故者慰霊祭は、やむをえず校舎玄関ドーム下で巖霜碑を遙拝しつつ厳粛に行われた。司祭の神主は一中時代以来石浦神社の長谷宮司をお願いしている。参加者は川北篤会長、中山修校長、3人の教頭、一中OB(45期、46期、52期)と、泉丘OBの幹事期・副幹事期関係者ら20名。今はなき諸先輩の霊に合掌し、新しい一歩を誓った。

## 一泉同窓会新役員の紹介

会 長 小倉周一郎 (泉丘7期)

### 副会長

普神 貴行 (一中56・泉丘2期)

水谷 昭 (泉丘7期) 蔵田 武男 (泉丘9期)

吉村外茂勝 (泉丘11期) 浅田 恒二 (泉丘12期)

荒磯 千舟 (泉丘18期) 多田 拓也 (泉丘25期)

村本喜和子 (通信28期)

### 監 事

奥田 徹 (泉丘6期) 笠置 研一 (泉丘11期)

### 相談役

荒川 宏 (一中45期) 越馬 平治 (一中49期)

米谷 半平 (一中50期) 宮 太郎 (一中51期)

渋谷 亮治 (一中54期) 川北 篤 (一中55期)

### 事務局長

正村 健三 (一中58・泉丘4期)



## 同窓会事業と報告

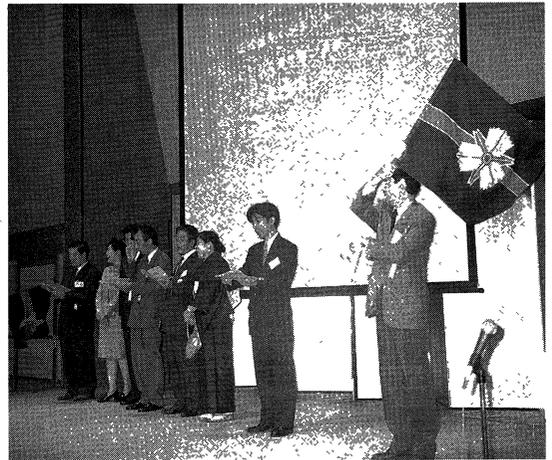
### ★平成11年度事業報告

- 4/3 代表委員会
- 5/1 同窓会機関紙「一泉」27号発行
- 5/6-11 桜美会小品展
- 6/5 関西一泉同窓会総会
- 9/1 一泉行列
- 10/15 一泉同窓会総会・物故者慰霊祭
- 10/21-26 桜美会展
- 11/5 関東一泉同窓会総会
- 12/6-20 桜美会スケッチ小品展
- 3/21 本多公園桜章校跡地碑副碑設置  
一泉同窓生住所職業調査 (12,488名)

### ★平成12年度事業計画

- 5/4-9 桜美会小品展
- 5/6 同窓会機関紙「一泉」28号発行
- 6/3 関西一泉同窓会総会
- 9/1 一泉行列
- 10/15 一泉同窓会総会・物故者慰霊祭
- 10/21-22 スケッチ小旅行 (近江路)
- 10/27 関東一泉同窓会総会  
一泉同窓生住所職業調査 (12,000名)
- 11/15-20 桜美会展 (名鉄丸越)

## “一泉”のきずなと友情を新たに 平成11年度関東一泉同窓会総会



関東一泉同窓会総会は例年のごとく11月の第一金曜日6日の午後6時半から、サンケイ会館ホールで開催された。多年にわたって日本の製紙業界のリーダーであり、近來はエッセイストとしてとみに名が高い河毛二郎会長 (一中43期) の挨拶。急用のため止むを得ず欠席の小倉周一郎 (泉丘7期) 一泉同窓会新会長に代わって、水谷昭副会長 (泉丘7期) が就任披露の元氣な挨拶をした。川北篤 (一中55期・一高) 前会長からは4年間の在任の報告と協力御礼の言葉が、中山修校長 (泉丘10期) からは学校の現況、特に好成績の進学や、活発な水泳部・陸上部・囲碁将棋部などの活動状況の報告があった。

懇親会は、例年のごとく移動自由な立食パーティで水を得た魚のごとくテーブルからテーブルへ回る人も多い。企業の中核で働いている人が多いのだろう。アトラクションはシャンソンとビンゴゲームで大いに盛りあがった。金沢と東京でよくもこんなに集めたと思われる程たくさんの景品の山で、ビンゴで上がれなかった者も出口で景品を頂き、うれしい解散であった。幹事期の20期大変にご苦労さまでした。 (正村記)

## 150人が集い、旧交温める

## 平成11年度関西一泉同窓会総会

第19回関西一泉同窓会総会は平成11年6月5日(土)午後2～5時、大阪市城見のパノラマピアレストランで開催された。金沢から中山修校長(泉丘10期)、恩師の楠禎一郎先生、一泉同窓会副会長の浅香以都子(泉丘10期)さん、事務局から正村健三氏(一中58・泉丘4期)が来賓として出席した。ほかに金沢、名古屋、東京からも出席があった。昨年は100名足らずであったが、今年は150名になんなんとする出席で盛会となった。うち一中の先輩は30名で、例年にならって「金沢を偲ぶ歌」「一中校歌」などでお元気をさせた。泉丘6期21名が「校歌」を合唱するなど結束の良さを見せた。



泉丘22年間の在職中、数学を丁寧に切れよく教え、生徒を愛し愛され続けた楠先生は、教え子との懇談に3時間をあつという間に過ぎた。好きなアルコールで喉を潤し、次々と楽しい話題を繰り出された。先生は、金沢から当時の生徒とのアルバムを持って来られるなど、久しぶりの邂逅に充実した時を過ぎ、大感激の様子であった。

## 柚木学関西一泉同窓会会長(一中54期)逝去

平成12年4月21日西宮の病院で肝不全のため逝去。日本学士院賞の『近世海運史』の研究など高い実績があり、大変に惜しまれている。関西一泉同窓会の和合にも力を注いで頂いた。

## 〈弓道場着工のめど〉

泉丘高校弓道部の1999年度の部員数は、60人に達しようという大所帯になった。一中弓道部の先輩の方々の10年を越える応援と指導の賜物である。弓道場については、2000年度中にプールとテニスコートの間に着工建設の運びとなった。併行してテニスコートの整備も行われる。

## 本多町の櫻章校跡地碑

## 副碑を設置

金沢市の本多公園に『櫻章校跡地』の石碑がある。金沢一中の旧校舎のあった場所で、1973年一泉80周年記念に当時の宮太郎会長(一中51期)が揮毫し手取石に彫り込んだ堂々たるものである。しかしながら、桜花を章にした学校は多く、将来世代の推移とともに混同されることになってはという懸念がなされていた。同窓会では平成11年度予算で、石碑説明の副碑を設置した。台石は黒の御影石、説明版の御影石はフォレストブラウンで主碑の色調に合わせた。副碑のデザインは小松嘸一氏(一中57・泉丘3期)。

なお、石碑背後の石垣上の斜面に、一中33期生のウバウメガシ、41期生のサクラ3種、45期生のサクラ1種と各石碑があるのも今はよい記念となっている。特に櫻章校跡地碑の右後に見える黒の御影石の碑は金田心象氏の揮毫。金田氏は昭和5～9年に一中の書道教官であり、のち書家として全国で名を成された方である。一中書道部も同氏時代に結成された。

設置された副碑の説明文は下記の通りである。

## 櫻章校

櫻章校とは石川県立金沢第一中学校のことである。金沢第一中学校は明治26年に金沢市新道(現本多町)に設置されたが、同30年にここ下本多町(現本多町)に校舎を新築し、移転した。以後昭和12年の富樫町(現泉野出町)への移転まで櫻章健児の学び舎があった。

なお、金沢第一中学校は同23年に学制改革で石川県立金沢第一高等学校、同24年には石川県立金沢泉丘高等学校と改めた。



おめでとう！第6回『一泉賞』

「心身一如の発達につとめて」に始まる金沢泉丘高校の校是は昭和31（1956）年に制定された。学校側による服装持ち物指導の強化に反発した生徒から、目標とする校是がないではないかという意見が出され、山本外吉校長が熟考の結果、打ちだしたものである。当時、高度成長が始まり生徒の日常生活も大学受験のための学習に偏り始めていた。その意味では、学習も課外活動もという含蓄の深い「心身一如」という目標は時宜を得たものであった。

これは、金沢一中時代「文武両道」という目標を掲げ、知的で剛健な生徒の気風が醸成されていたのと相通ずるものがあった。「文武両道」「心身一如」の理想は平成の現在も変わりはない。「一泉賞」はこの理想に沿って制定されたものである。

〈一泉賞受賞のみなさん〉

・運動部関係

〔陸上〕 會田信穂、山崎良成、徳多正行、南堀直之、江波護、吉村充将〔登山〕 河原麻衣、田中秀明、田井小百合〔剣道〕 本山義晃、松平拓也〔テニス〕 平井陽〔バドミントン〕 小原一颯〔男子バレー〕 水野嘉是〔ハンドボール〕 出野尚、村中ありか〔男バスケ〕 西野武蔵〔女バスケ〕 木村美穂〔水泳〕 干場崇史、吉田広人

・文化部関係

〔JRC〕 大西絵里、田川明日香〔囲碁部〕 押田華奈〔将棋部〕 山本健〔書道部〕 永島慎朗、粟田伸之介、中野明夫〔放送部〕 黒杉愛、大阪真智子〔合唱部〕 中谷元

・生徒会役委員・ホームルーム関係

〔図書委員〕 浅野雅哉、木村信元〔生徒会〕 谷川恵一〔ホーム役員〕 高島翔吾〔ホーム委員〕 佐藤尚美、松井秀樹

・通信制 島崎陽子、高田真也



通信制卒業式の一泉賞授与

一泉同窓会基金  
資産および事業内容

平成11年度中間報告

平成12年1月31日現在（単位千円）

財 産 目 録	基本財産	
	百周年記念特別基金	40,000
	公益信託教育振興基金	50,000
	運用財産	489
	同窓会支援金	1,500
	寄付金	140
平 成 十 年 度 実 施 事 業	運用収益	460
	合 計	2,589
	事務費（信託報酬・公告）	458
	一泉賞（表彰生徒数43名）	430
	クラブ活動助成	200
	理数科課題研究助成	200
	国際交流活動助成事業	100
	福祉活動支援	100
	図書購入助成	100
	遠征用送迎バス買替積立資金	300
通信制体育用品購入助成	100	
小 計	1,988	
来年度繰越運用財産	601	

平成11年度の運用収益は上の表の通り現行の金利水準では46万円前後しかなく、運用収益は見込めない状況です。

寄付をお待ちしております。一泉同窓会事務局に申し付けて下されば、払い込み振替用紙をお送り致します。

☆寄付 瓜生復男（一中39期） 30,000円  
匿名 110,000円

先進技術で社会に貢献する... **Shiitaya**

**澁谷工業株式会社**

代表取締役会長 澁谷 亮 治（一中54期）  
本社〒920-8681 金沢市大豆田本町 TEL 076-262-1201

**シブヤマシナリー株式会社**

代表取締役社長 渡 辺 英 勝（泉丘13期）  
本社〒920-0023 金沢市北安江町421 TEL 076-233-8111

●白山国立公園 ●国民休養地 ●県立自然公園



白山一里野温泉〈国際観光旅館〉

**一里野高原ホテル**

山崎 正 夫（泉丘13期）

〒920-2333 石川県石川郡尾口村尾添  
TEL (07619) 6-7141 FAX (07619) 6-7441

# 同窓生の集い

## 【一中41期(昭和9年卒業)総会】

平成11年10月15～16日・片山津温泉「せきや」

私達は177名の卒業であります、45名の現存者になりました。卒業以来66年、実に140名近くの学友が亡くなっていることとなります。その間可憐(あたら)戦争で身をお国に捧げたものが実に20名居ります。まだ若い気持ちで居るのですが、同窓会の席上では大先輩の学年に祭り上げられるので面映(おもは)ゆくなります。

同期生会は毎年恒例として期日は10月15日(創立記念日)場所は片山津温泉(せきや)と決めてあって、フリー参加の形式にしてありますが年々参加者が少なくなり今年は9名でした。

別に年2回「同期生会だより」なる小冊子(10ページぐらい)を発行し、全員の近況や回想記の寄稿文をのせ、配布して居ります。今まで18号まで出しました。会を持って都合や身体の具合で集まりが悪いのでこの小冊子をみんなの談話室といたことにして、これを中心に親睦を深め仲々好評を得ています。(南秀男記)



## 【一中42期(昭和10年卒)十桜会総会】

平成11年10月12～13日・「粟津グランドホテル」



毎年恒例の十桜会も今年は第28回総会を迎え、私たちも、いつの間にか80才を越えて、早2年。同期生174名中107名を失って、残る者も若かりし日の色香も失せ、転た今昔の感無量なるを覚えます。今年の総会は故郷加賀の粟津温泉でゆったりと普段着の温泉気分を味わうことにした。現在会員67名、参加者は会員23名と同伴夫人8名、合わせて31名。

開会に先立ち、昨年の湯河原総会以降逝去された7名〔岡島実・結城善郎・十河義郎・小泉甚三・能谷俊雄・野口良三・総会直前なくなった鴻野五八〕の会友諸兄のご冥福を祈り黙禱。

主催地区を代表して諸江幹事が「残り少ない黄金の日々を大切に助け合って生きよう」と挨拶十桜会今後の運営についてお互いの体力気力に限界を覚える昨今、全国総会をこのまま継続か否かについて審議し、次のように決まった。

とりあえず2年後までということ

- 1、平成12年(第29回)は従来通り関東地区幹事担当により開催、場所は箱根湯本富士家ホテル、日時は11月初旬
- 2、平成13年(第30回)は関東・北陸・中部関西3地区の共催とし、場所は京都方面

この後懇親会に移り一中応援歌を詠いカラオケを唄い、夜のふけるまで話に花を咲かせた。

なお私たちの十桜会に毎年ご夫妻で参加頂いた大切な恩師藤田誠一先生が1年間の療養甲斐なく平成11年10月14日(私たちの会の翌日)他界された。享年92歳。十桜会会員一同心よりご冥福をお祈り申し上げます。(坂本記)

出席者〔関東地区〕上島外二・久保田全俊夫妻・坂部重之夫妻・中谷郁夫・西村忠恭・古沢英雄夫妻・山崎大喜男・米山兵吾〔関西中部地区〕今井國男・沖野永保・酒井正〔北陸地区〕浅本行雄・葛西満夫妻・柿木義夫夫妻・久間賢三・駒居三郎・坂本六郎夫妻・高島有幸・東勉・舟田一雄夫妻・細木忠清・松本芳式・諸江敏夫夫妻

## 元地健法律事務所

(関西一泉同窓会事務局)

弁護士 元地 健(泉丘13期)

〒530-0054 大阪市北区南森町1-3-27  
南森町丸井ビル8階  
TEL 06-6364-6793  
FAX 06-6364-6176

## 金沢陶器株式会社 陶芸和陶芸教室

代表取締役社長 本野 雅隆(泉丘13期)

本社工場 金沢市三社町7-39  
TEL(076)233-3300(代)  
FAX(076)233-3301

【一中46期(昭和14年卒業)総会】

平成11年7月18日 卒業60周年記念

山中温泉「よしのや依緑園」



わがクラスも今年にはや「卒業60周年記念」。どうせやるなら山中の老舗高級ホテル「よしのや」でやるまいかと、ここに決まる。ホテルの窓から見る初夏の山中「鶴仙峡」は足下に大聖寺川の清流がせせらぎ、すぐその対岸には萬緑したたる原生林と、まさに翠巒の境山中ならではの眺めであった。

「オイ、ヨウ来テクレタナ」関東から関西からそれに地元から元気な面々が集まってくる。夫人同伴の一人を入れて出席者29名。

総会での議題に「傘寿(80才)記念号」として、もう一回「巖霜年報」を発行したらどうかと。巖霜年報はたしかにわがクラスの代表作品。基金集め、原稿集め、製本と、エライコッチャがもう一回頑張ってみるか。

群青壁の立派な大座敷での懇親会はアルコールも相当な量でまだまだいける。ただ、校歌・応援歌は往時の名リーダーも寄る年波に目はかすみ、声はかすれ、動きはヨタヨタ。だいぶグチャカンスタイルとなってきた。アンマリ無理デキン年ジャワイ。あとは部屋で車座のおしゃべり会、昔話の花が咲き、夜中1時頃まで話し込む組もあった。翌朝「マタ来年会ウゾ」とおたがいが励ましあい解散。三々五々帰路についたのである。

(太田記)

出席者<関東>吉田喜市、村上淳男、山本周三、尾本康次郎<関西>細川照、新宅健雄、阪東芳雄、加藤敬、同夫人、<北陸>金谷与平、石立実、稻松敏夫、大垣秀邦、太田定夫、瀬川成、片岡茂太郎、金丸直治、坂本仙之介、寺内良雄、中野輝一、中村政男、鍋谷太市、深田元夫、藤井欣一、松本忠男、松本豊次、松本洋三、三崎秀夫、宮本敏之

【一中47期(昭和15年卒業)十五桜会総会】

平成11年4月15日(木) 栗津温泉「おびし荘」にて'99年度15桜会総会を開催した。今年は47期同期生の殆どは「喜寿」を迎えたか、あるいは迎えようとしている。

昭和15年3月、一中卒業の頃は既に軍靴の音高く、海兵、陸士へ入学したものの殆どは青春や平和を知らずして、沖縄、中国、フィリッピン等で昭和20年終戦直前に同期生20名が戦死している。敗戦後の激動の50年間は医学や工学、情報が進歩発展を続けたので、現存同期生で生き永らえ、一病息災のものは、87名である。

この内、今年は23名が出席予定であったが、当日体調不良等により20名が出席した。大屋幹事の司会により大蔵幹事から同期生ならびに一泉同窓会の現況報告があり、続いて関東の福岡幹事、関西の元田幹事から、関東、関西の同期生の近況報告があった。昨年は、森沢正夫、森山兼之、堀井渉の3君、本年1月中川智雄君が急逝した。物故者の冥福を祈り黙禱を捧げた。

順天堂大学名誉教授中島章君の音頭で乾杯をし



株式会社 クスリの **アオキ**

代表取締役社長

**青木 桂生**

(泉丘13期)

本部

〒924-0057 石川県松任市松本町2512番地  
TEL (076) 274-1111 FAX (076) 274-6114  
E-mail : aokih101@hitwave.or.jp

建設総合コンサルタント



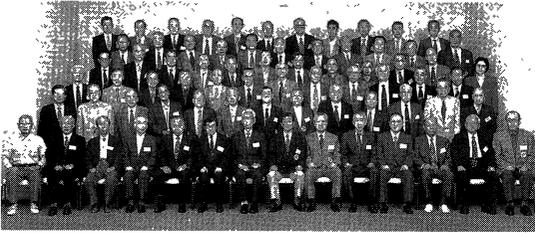
株式会社  
**富士設計コンサルタント**

代表取締役社長 **野村 碩志** (泉丘13期)

〒920-0343 金沢市畝田中3丁目4番地  
TEL 076-268-6100(代)  
FAX 076-268-1822



【一中54期(昭和21・22年卒業)朱木会総会】



平成11年5月29日午後2時から、松任市のグランドホテル松任(板尾達雄社長・一中54期)で一中54期「朱木・古稀の会」を開催しました。同期は4年修了、5年卒業、更にはもう1年在学して一高生として卒業した者など、戦中戦後の社会混乱期を経験した苦悩の多い旧制中学生。軍関係校から復学した者56名、事情があって転校を余儀なくされた仲間も含めて、同期生として朱木(54は株、株を分析して名付けた)会を組織している。

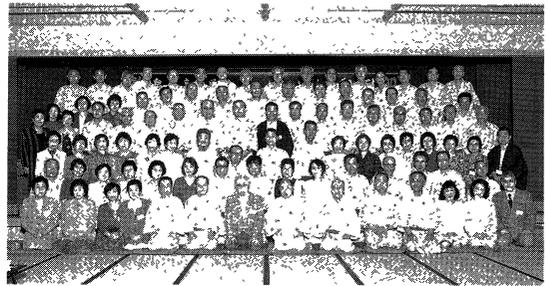
古稀の会には全国から75名の参加があった。出席を予定しながら5日前に急死した松波俊一君を加え、故人は58名を数える。開会に先立ち亡き友への冥福を祈り黙禱を捧げる。全員着席すると会場は暗くなり、静かに影笛が響き渡り、各自が卒業52年の来し方を瞑想にふける一時だった。関東・関西・九州など遠来の友が約30名、卒業後初参加の珍客もあり、午後5時まで3時間、加賀料理と地酒『天狗舞』と地元のビールに舌鼓をうちながら旧交を温めた。

二次会は同ホテルのバーでの飲み直しや、アマ8段格の辻良平君(東京理科大教授)を中心に和室で囲碁の会が開かれ、徹夜の対局もあった模様。当日の出席者は次の通り。(宮崎欽彌記)

赤井外喜治、浅野俊一、安藤康雄、池田寿夫、石尾昭、石田外志郎、泉彪之助、泉谷勝巳、板尾達雄、板谷芳京、

小川潔、大河直躬、岡本俊、大島政忠、川久保昇、河村幸吉、渋谷勇、玄田勲、木越樹、沓掛哲男と同夫人、桑田省三、小林和夫、五宝外美雄、越馬純一、渋谷亮治、鈴木秀俊、鈴木博、関川久男、田村実、多々静夫、高瀬団、竹村博、辻良平、土屋功、中川正道、西川二郎、野村純一、能崎富夫、橋本慶典、橋本良也、長谷川浩、林希樹、永田正男と同夫人、二木清、備前祐次、広瀬哲彦、広瀬末治、深井寛、福塚勲、深見正孝、前田進、牧本一夫、松本禮二、矢来正、丸山一郎、水野慶一郎、宮川隆泰、宮崎欽彌、宮崎光二、武川昭男、元谷喜久夫、森川幹久、矢田剛、山河隆、山田善一、山本浩、山本道生、柚木学、横野浩、吉竹毎謳、吉村誠恒、渡辺正造

【泉丘7期(昭和30年卒業)総会】



平成11年6月5日、手取川畔の辰口温泉「たがわ龍泉閣」で11年度総会を開催した。

卒業以来44年。我々が在学していた頃、菜の花畑の広がっていた校舎周辺の田園風景も、今は遠い思い出である。

4月の一泉同窓会代表委員会で同期の小倉周一郎君が次期会長に、同じく水谷昭君が同副会長に推薦され、総会は、ご両人への激励の意味を込めての開催。急な呼び掛だったが、男64名、女31名の計95名が集い、お互いの健康を祝し、思い出話に夜を徹して大いに盛り上がった。

Steel & Machine  
**KINTA**

鉄鋼・機械・建設資材・管材

取締役社長 南 昭 武 (泉丘14期)

**株式会社 金太**

本社 〒921-8561 金沢市泉本町5丁目61番地  
TEL(076)242-3080(直通) FAX(076)280-8080

**カタニ産業株式会社**

代表取締役社長 蚊 谷 八 郎 (泉丘14期)

〒920-0902 金沢市尾張町2丁目16-80  
TEL (076)263-6111(代)  
FAX (076)222-3433  
E-mail : h-katani@nksnet.or.jp

## 【泉丘7期(昭和30年卒業)関東同期会について】



名簿によれば関東在住の昭和30年卒業の同期は約80名であるが、その中の有志が三か月に一度の昼食会、年一度の会合、一泊旅行またはゴルフ会等を楽しんでいる。そもそもこの会の発端は意外にも昭和40年初めの万博前夜の大阪で、勤務先の近い仲間が御堂筋で持ち回りの昼食会を開いていたことに始まり、その主要メンバーが偶然同時期に東京へ転勤となったことから、会はそのまま引き継がれることになった。30歳代、40歳代高度成長期の激務の中から時間を割き毎年数回、平均25名参加の会合を六本木や巣鴨で開いた。50歳代に入り、女子の参加者も増え始めた。今では一泊旅行もまじえて開催している。

この同期会がうまくいっている秘訣は、世話役が会社施設等を有効に利用してメンバーの負担を軽くしていること、また電話等で気軽に呼び掛けあう形で集まるネットワークができていて、他年度の同期会と比較してみても決してひけをとらない会だと自負している次第。今後も皆の健康の許すかぎり続けてゆきたい。松本良雄記(31H)

## 【第12回泉泳会総会・懇親会】

2年に一度の水泳部のOB会・泉泳会が平成11年8月14日に開催された。今年も懐かしい母校のプールで往年の水泳部員にかえって水しぶきをあげ、リレーなどの競技に汗を流しました。今年も、ローマオリンピックの200メートル銀メダリスト大崎剛彦さん(泉丘9期)も参加し昔と変わらない力強い泳ぎを披露した。

総会の後、ガーデンホテルで行われた懇親会では久しぶりの再会に杯を重ねて楽しい一時を過ごした。

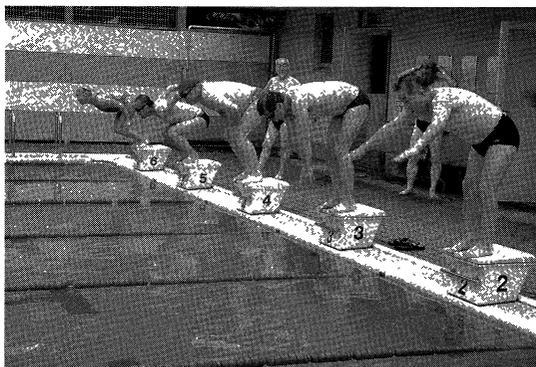
泉泳会の会員は第一期生の一中36期から泉丘51期まで320名余。数多くの名選手を輩出した水泳部は今年度も石川総合2位という立派な成績をおさめているとのこと。OB会の泉泳会としては昨年よりマスターズ水泳大会に出場し、これも現役に負けず立派な成績を収めている。

なお、総会において、泉泳会ネーム入りの水泳帽子を作ることを決定し、会員に半額負担にて斡旋することになった。ご希望の方は事務局石田までお申し込み下さい。

第13回の泉泳会は平成13年夏に開催される予定。次回には今回にも増して是非ご参加ください。

泉泳会会長 林 繁夫(一中44期)

常任委員長 石田憲二(泉丘18期)



ツジ建築写真工房

代表・フォトグラファー

辻 史朗(泉丘14期)

TEL(076)243-8782・FAX243-8780

〒921-8151 金沢市窪6丁目99 自宅 ☎243-8128



「自然とともに歩む環境文化づくり」  
建設総合コンサルタント

株式会社 北日本ジオグラフィ

代表取締役社長 磯野 洋明(泉丘14期)

本社 〒920-0841 金沢市浅野本町2丁目2番5号

TEL(076)252-3211~4 FAX(076)251-6610

東京支社 〒215-0005 神奈川県川崎市麻生区千代ヶ丘4-17-4

TEL(044)955-4369

### 【陸上部 OB 会だより】

金沢泉丘高校陸上競技部OB会が発足してもう15年が過ぎました。発足に当たって今はなき山越(旧姓村田)先生を始め多くの方々のご尽力をいただきました。

第一回総会をKKR会館で開き、小松嘯一先生(泉丘3期・現卯辰山工房)を初代会長に選び、一中OB会と泉丘20期までの約200名でスタートしました。泉丘高校陸上部は過去に県高校陸上競技選手権大会で15年連続優勝した輝かしい実績があります。現在、会員を泉丘45期までに広げて400名を越える大所帯になっています。

この会の意義は母校の陸上競技部の生徒たちを物心両面から激励することと、OB間の相互親睦を進めることにあります。生徒たちの強化合宿、北信越大会、インターハイ、国体などのため多額の費用が必要であり、これらの諸経費を少しでも援助できればと思っている次第です。

現在部員たちは顧問の山下先生を中心に久木先生、前田先生のご協力のもと一致団結して練習に勉学に励んでいます。昨年11月、都大路を駆ける第50回都道府県対抗高校駅伝県予選会(NHK金沢放送局実況放送)では尾山台高校と互角のデッドヒートを繰り広げたが惜しくも2位になりました。今年は是非優勝し県代表として憧れの都大路を走ってもらいたいものと期待しています。

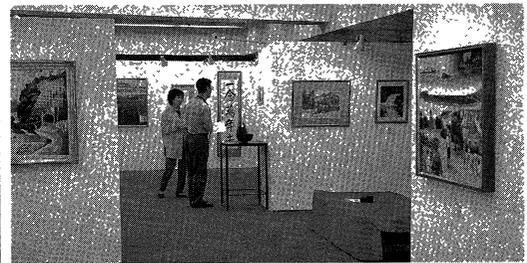
2000年2月20日

金沢泉丘陸上競技部OB会  
会長西村外志雄(泉丘8期)

### 【70作品華やかに】

“美の同窓会”として活動する一泉桜美会は恒例の「第27回一泉桜美会美術展」を平成11年10月21日～26日に金沢市片町のラプロ7階のアートシアター石川で開いた。恩師2点、一中OB29点、泉丘OB39点の合わせて70点が会場を華やかに彩り連日多くの愛好者で賑った。洋画・写真・書・染色・工芸・彫刻・俳句額・抹茶碗等多岐にわたる洗練された力作・秀作ぞろい。一中57期泉丘3期で過去水墨の大作を出品されていた平松茂氏がなくなられ、氏の作品のないのが寂しい。

一泉桜美会は旧制金沢一中と泉丘高の卒業生の110人の同好の会で、若い層の加入を特にお待ちしている。



### 台湾に八田技師記念室

台湾農業の恩人として現在も台湾の人々が敬愛してやまない八田與一氏(一中11期)と外代樹夫妻の記念室が台湾烏山頭水庫(ダム)のほとりに設けられることになった。資料は「八田技師を偲び嘉南と友好の会」の事務局長中川外司氏(泉丘8期)が約1年間にわたって鋭意集めたもの約150点を中心。烏山頭水庫は完成の昭和5年当時東アジアでは最初の堰堤型ロックファイルダムで、その用水は金沢平野の約10倍の面積を灌漑している。米の増産を目標にし

た当時の日本帝国の国策事業であったが、責任者の八田技師が現地の人々分け隔てなく接したこと、耕作農民の立場も配慮した配水計画であったこと、昭和17年に南方へ行く輸送船撃沈で戦没したこと、終戦後外代樹夫人が8人の子供を残してダムサイドに投身し夫の後を追ったことで、台湾の歴史に残ることになった。一泉校史資料室からは與一氏関係の写真と入学と卒業時の学業成績順位を示す資料が提供されている。



### 学校法人金沢工業大学

理事長 泉屋利郎(泉丘14期)

石川県石川郡野々市町扇が丘7-1 〒921-8501  
TEL 076-248-1100 FAX 076-294-6746

建設機械販売・修理・リース

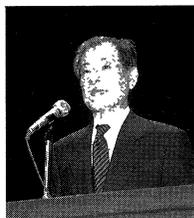


株式会社 北国建機

代表取締役 中島雄介(泉丘14期)

〒921-8805 石川郡野々市町稲荷1丁目11  
TEL(076)248-2261 FAX(076)248-2262

### 三氏が母校で講演



#### 宮川隆泰氏 (一中54期) 「知識と情報」

平成11年10月13日啓泉講堂で全生徒を対象に行われた。哲学や社会学を基礎にした認識論から始まり、情報と知識と知恵との関係、道具としてのコンピューターの役割と人間の判断の主体性との関係分析、そして現代の大学での学生のあり方、自分の個性と実社会の関係に至るまで、奥深い内容であった。物事を基本・原理から考える態度を説かれた。宮川氏は三菱総合研究所の主任研究員を務められ、金融バブルを引き起こした日本人を暗に批判する中央公論新書『岩崎小弥太伝』の著者。



#### 生垣 茂氏 (一中58・泉丘4期) 「高校生の喫煙は 何故悪いか」

平成11年12月14日啓泉講堂で行われ、多年に渡る医療の現場で収集されたスライドと実証的な統計・知識と臨床経験を使ってタバコの手を教える説得的な内容であった。生垣茂氏は輪島総合病院の院長として地域医療に取り組む一方、喫煙の抑止を呼びかけて来た。人柄のおおらかさと暖かさで患者さんにも病院関係者にもファンが多い。



#### 河原山晴夫氏 (泉丘5期) 「スポーツで得たもの」

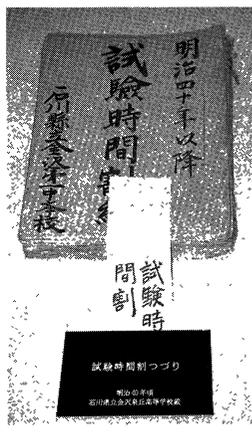
平成12年2月啓泉講堂で1・2年生対象に行われた。氏は泉丘高在学中はバドミントンのインターハイ選手。永年

にわたる高校教員生活の中で得た教育者として、またスポーツ指導者としての貴重な体験談。練習、栄養、時間、保健の具体的な事項から、組織の組み立て方、勝者敗者の条件、海外遠征の状況など多岐にわたり、人生訓とも言える具体的に明快な話し振りに生徒は真剣に聞き入った。

#### 一泉資料室も協力

#### 金沢「明治の中・高等学校」

平成11年5月19日から同年12月19日まで「金沢・明治の中高等学校展」が、金沢市本多町の市立「ふるさと偉人館」で開かれた。この特別展は、市政施行110周年記念事業に協賛して、学校の役割と今後の金沢の教育を考えるもの。わが一泉校史資料室からは、明治30年代に新築なった本多町校舎内の諸資料が出品された。明治36年のセピア色の卒業写真は久田督(おさむ)校長を中心に教職員、卒業生全員が写ったもの。自由闊達な校風の下、大正から昭和の10年代にかけて日本をリードした数多くの逸材を生み、母校金沢一中の名を高めた。



資料の中で目を引いたのは、生徒の手になる精密な動物や植物の解剖図。同時展示の第四高等学校の物理の実験器具や生物の実験写真などとともに、明治の日本が理科・科学教育に一貫して力を注いでいたことが偲ばれる。

修学旅行から海外旅行まで



◎日本旅行業協会  
運輸大臣登録 旅行業第1099号

**日本ツアーシステム**  
(ツアーシステム株式会社)

代表取締役社長 堂井重昭 (泉丘14期)

〒921-8011 金沢市入江2丁目88  
TEL (076) 292-0055 FAX (076) 292-0075  
http://www.tourssystem.co.jp

東京海上専属代理店

**株式会社 イシシロ**

代表取締役 石代修一 (泉丘14期)

〒921-8052 金沢市保古1丁目235-1  
TEL (076) 269-3200  
FAX (076) 269-3456

## 彫刻家

## 木村珪二氏(一中29期)の幻の三部作

木村珪二氏は東京美術専門学校卒業の彫刻家で日展審査員、東京教育大学の教授として活躍された。

氏は昭和17年の金沢一中創立50周年記念に『練成』像を寄贈された。筋骨たくましい『練成』像は塑像で少しずつ傷みが進んでいる。銅像に替えられればよいのだが。旧校舎の講堂向かって左奥の『練成』像がまぶたの裏に焼き付いている同窓生も多いだろう。1984(昭和59)年の新校舎に改築後は一時教室棟中央階段下にあったが、現在は、啓泉講堂の向って左奥。昔と同じ場所に設置されている。

1963(昭和38)年の一泉70周年には『逆流』像が寄贈され、同34年に新設された図書館棟の運動場側に置かれた。その後新校舎になってから



『練成』

は、正面ドーム奥の中庭に移された。ただ残念ながら生徒の意識するものも少なく点景化している。

木村氏の作品に『練成』、『逆流』像に続き、『久遠』像(昭和40年第8回新日展入選作)がある。青年期の鍛錬を意味する『練成』、世に出てからは『逆流』といえども歩む気概、そして完成を意味する

『久遠』。まさに若者に語りかける三部作として生み出されたといえよう。そこで、1983年の一泉90周年記念には『久遠』像を是非に



『逆流』

という同窓会関係者の希望が強く、当時の同窓会事務局長の西多外喜次氏(一中39期)が奔走され、ご遺族の了承を得てあったが、諸事情でいまだ実現していない。

『久遠』像の原像は、昭和57年に珪二氏のご子息松夫氏が石川県立美術館に寄贈された。(正村記)



『久遠』

## 平成11年度一泉文庫寄贈・購入本

書名	著者	寄贈者
光ある記録—わが六十年の歩み—	田辺建雄(一中52期)	田辺建雄(一中52期)
逆風順風	河毛二郎(一中43期)	河毛二郎(一中43期)
朱木(第7号)	金沢一中54期同期会	金沢一中54期同窓会
奥田代議士の30年(ビデオ)	北陸放送	奥田建(泉丘29期)
検察生活を顧みて(ビデオ)	土肥孝治(一中58期)	毎日放送
高峰譲吉と久田督(ビデオ)	北陸放送	久田丈一郎
芭蕉の山河(おくのほそ道私記)	加藤楸邨(一中30期)	購入
猫	加藤楸邨(一中30期)	購入
鶴 彬—反戦川柳作家	深井一郎(一中49期)	相坂一成(泉丘4期)
「俗字類聚」総索引—李花亭文庫	深井一郎(一中49期)	相坂一成(泉丘4期)
阪神淡路大震災年 での小さなボランティア 活動記録	龜田 廣(泉丘2期)	龜田 廣(泉丘2期)
北の都	関 明(一中55期)	関 明(一中55期)
詩編と詩論 ＜サランコットの朝方に＞	高橋サブロー(泉丘7期)	高橋サブロー(泉丘7期)
随想集 荒廃	玉村文雄(一中42期)	玉村文雄(一中42期)
語り・寓意・イデオロギー	西田谷洋(泉丘37期)	西田谷洋(泉丘37期)
十五桜会 喜寿一言葉	十五桜会有志	十五桜会有志
近世庶民生活史料 —未刊日記集成1・2	茶谷十六(泉11期)・松岡精編	茶谷十六(泉11期)
院内銀山の日々「門屋養安日記」	茶谷十六(泉11期)	茶谷十六(泉11期)

## トピック

高森隆介氏（一中19期）が  
守った三蔵法師の遺骨

昭和17年、南京駐屯の日本陸軍の造兵廠部隊司令官であった高森隆介大佐（一中19期）は、南京郊外のある丘の上に立った時、靈感があったという。丘の上に、日本兵士たちの宗教心に応えるためお稲荷さんを建てるつもりであった。ところが日本軍による整地作業の時、地中に巨大な石板があって、めくると人骨の入った石棺が出てきた。お棺の裏蓋に由緒書があり、唐帝国初期にインドへ、シルクロードを旅して大蔵経を持ち帰り漢語に翻訳した玄奘三蔵法師と、弟子たちの頭骨および副葬品であることが分かった。

玄奘は西遊記の三蔵法師のモデルであり、中国仏教史の中ではもっとも尊敬されている人物である。由緒書から、唐初期の高宗皇帝に厚く尊崇され、遺骨ははじめ長安に葬られたが、唐末の黄巢の乱であばかれ、次の宋の時代には北方遊牧民の侵入を恐れ、華中へ移されたということが分かった。清朝末以降所在不明になっていた。

この発掘品は、当時親日派であった南京の王精衛国民党政権が法要を行い、全点引き取った。中国側がこのことに感謝し、仏教の東の終着点である日本に分骨してくれたのが昭和19年。受取側の日本仏教協会は空襲が激しくなって、東京に置けず、埼玉県岩槻の慈恩寺に預けた。

終戦時、陸軍少将であった高森部隊長は中国に残留させられた。奥さんと子供さんの御家族は、日本人の運転手が皆逃げてしまっていたので、義理堅い中国人の運転するトラックで波止場まで送られ、石炭船で無事引き揚げてきた。

遅れて帰国した高森氏は金沢蛤坂新道で謡の師

匠をして暮した。南京に行くまで大阪の砲兵工廠に勤務していた関係で、川崎製鉄からの紹介で金沢の金太商店（鉄鋼の卸問屋）の顧問にもなっていた。また、日華親善東亜文化復興玄奘三蔵法師遺徳讃仰会理事になっていた。昭和29年に亡くな



三蔵法師遺骨の発見

られ、森山の浄立寺（本願寺派柳御坊）に葬られたが、後にクリスチャンのご子孫によって北海道へ移された。

戦後、国際環境は一変したが、日本分骨については中国の国民党正統政府も重光葵氏らの仲介によって認めてくれた。高森氏の最晩年に台湾の国慶節に呼んでくれたが、残念ながら高齢で行けなかったという。台湾の日月潭の辺の三蔵塔には南京からの分骨が祀られている。高森氏没後も、未亡人に台湾から法要時に招待がきていた。台湾の観光案内書には、戦争中日本軍が南京から遺骨を持ち出したとだけ書いてあるが、経緯が不明である。

高森部隊長が文化を大切に発掘時の処置をあまりなかったことが、後々までも日中友好、特に仏教界の交流に好影響を与えることになった。なお日本では遺骨は他所へも分骨されたが、玄奘が法相宗であった関係から日本の法相宗総本山の奈良薬師寺に最終的に落ち着いた。高田好胤師が計画され、薬師寺境内に天平様式の三蔵院を建立し祀った。現在、院内の講堂に2000年末完成を目指して平山郁夫画伯が仏教東漸の長大な壁画を制作中である。

1999年末、泉丘高校の万葉大和旅行隊が薬師寺を訪問したときは、高森部隊長の出身校の後輩だということで、二隊が二日にわたって三蔵堂を開扉して詳細な説明を頂き、随分勉強になった。

高森隆介氏の事跡は、台湾の嘉南に大用水を建設した八田與一氏（一中11期）とともに、忘れてはならないことである。（正村記）

参考『玄奘三蔵のシルクロード』

『日本にのこる三蔵法師の面影』

薬師寺副住職安田咲胤著

高森隆介氏関係者からの聞き書き

金沢一中54期会誌  
『朱木7号』発刊

金沢一中54期の期会誌『朱木7号』が発刊された。古希を記念しての編纂であるが、同窓会誌によくある回顧録ではない。70年の年輪の集積の上になって現在・未来に展望が開けている。同窓同期という因子では共通であるが、一人一人の問題意識が広く鋭く多岐にわたっている。どのページを開いても知的刺激に満ちていて読みごたえがあり驚きである。‘朱木に感謝して’という文章の中に「人生の嘗酸と魂の浄化」という言葉があった。すぐれた同期会誌がもたらすものであろう。

(正村)

校庭のさくら

金沢泉丘高校の校庭の桜がようやくほころびかけた4月10日、第55回入学式が挙行された(泉丘10期の中山修校長が退職、代って泉丘12期徳田寿秋校長が着任した)。この日、一中47期の方々が花曇りの下、巖霜碑前で慰霊祭を催行されたが、昭和12年当時在籍して植樹作業に加わっていただけに感慨一入のようであった。一泉編集室も桜を愛でながら編集作業に取り掛った。

校地内の桜の本数は、今年の3月初旬まで94本。根元で2本3本に分かれているものを1本としての計算である。この3月、泉丘52回の卒業生が卒業記念にシダレザクラを1本植樹したので95本になった。

昭和12年に金沢一中が現在の地に移転した時、当時5年生であった荒川宏氏(一中45期)は、生徒らの手で桜を100本植樹したと言われる。それ以降昭和36年に昭和6年卒業の六桜会(一中38期)が卒業30周年記念に植樹したケンロクエンキクザクラ6本、昭和59年に野々市一泉同窓会が野々市一泉同窓会結成と、一泉90周年を記念して

植樹した6本、運動場の縁の老木の並木の中の若木が5本、巖霜碑の傍の元気な1本、それに上記のシダレザ



クラ1本の計19本である。したがって19本を現存する95本から引くと当初の100本の桜は76本に減ったことになる。この76本はすべて葉芽の出る前に一斉に満開となる、ソメイヨシノと思われる。

毎年アメリカシロヒト

りの季節になると、通行人や近所から苦情の電話が来るので、昨年4月3日、開花前に運動場の道路側に出ている枝を剪定した。植木屋の都合もあり早目に作業が行われたのだが、抗議の電話が掛かるやら、花を愛する心を教育しないのかと新聞に投書されるやらひんしゅくをかった。4月3日当日は一泉同窓会代表委員会が開催され、川北会長提案で、新会長に満場一致で小倉周一郎氏(泉丘7期)が推薦された日であった。当日出席者の多くは剪定されたさくらの姿を見て啞然としておられた。

現在泉丘高校にはアメリカ人女性のデー先生と、ホームステイのカナダ人女性生徒のローラさんがいる。二人ともさくらを眺めて「大変美しい」「とてもきれい」と感嘆することしきり。彼女らは日本語を熱心に勉強しているが、必ずや日本の伝統文化をも理解してくれるに違いない。

編集後記

一泉28号の発行が随分遅れてしまい、申し訳ありません。同窓会のEmailが以下のように決まりました。同窓会に対するご意見、ご要望を気軽にお寄せ下さい。

Email: [issnenknz@hotmail.com](mailto:issnenknz@hotmail.com)

「一泉」の原稿もお待ちします。紙幅の関係もありますので大作はご遠慮申し上げます。

次号の広告は泉丘15期・16期(各期12万円)にお願いします。

「一泉」編集室

正村健三(泉丘4期) 浅香以都子(泉丘10期)

小林弘子(泉丘12期)

題字・坂野雄一(一中54期)